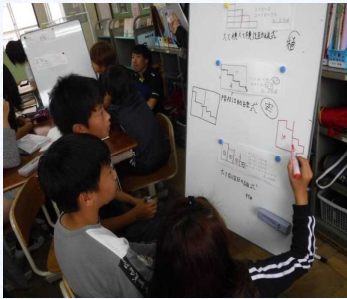


文部科学省 研究指定

教科等の本質的な学びを踏
まえたアクティブ・ラー
ニングの視点からの学習・指
導方法の改善に関する実践
研究
(平成28・29年度)



京都市 の取組

京都市教育委員会

1 京都市のこれまでの取組と現状

京都市の基本方針

一人一人を徹底的に大切にする教育
～授業改善を推進し、学力向上を目指す～

京都市学校教育課程指導計画
「京都市スタンダード」

学力・学習の現状
全国学力・学習状況調査の結果から

各校の教育課程編成の基準
・教科書採択ごとに作成 ・各教科・領域
・全学校に配布(各学年, 各教科・領域)

H28の結果より
・国語, 算数・数学のAB問題
全国を0.3から2.1ポイント
上回る

小 H26 中 H27に作成した「京都市スタン
ダード」において, 各校の研究・実践を進
めている

個別の学校でみると課題がある
主体的に学びに向かう力が課題

京都市スタンダードをもとに授業改善を実践しているが, 教科等の「本質的な
学び」を深め, 協働型授業への改善がさらに必要

カリキュラム・マネジメントの構想



2 京都市の研究の概要 ～研究主題と研究の流れ(各拠点校の研究)～

研究主題

「本質的な問い」をベースとした, 教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラー
ニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究を通じて, 児童生徒が主体的
に学び, 思考・表現し, 探究する力を育成する。

研究の流れ

研究指定 小学校3校 中学校2校

基

「本質的な問い」・「パフォーマンス評価」を取り
入れた単元構想を軸に, 各拠点校の研究と関連付け
ながら, アクティブ・ラーニングの視点からの改善
を図る(授業の手法等)

各校の研究の視点

- ・「めあて」と「振り返り」を明確にした授業展開の徹底
- ・育成すべき資質・能力に即した年間指導計画の作成
- ・思考ツールの活用や知識構成型ジグソー法を活用した
グループワークの充実
- ・各拠点校の研究発表会や公開授業等による成果や課題の共有

2 京都市の研究の概要 ～研究の流れ 拠点校共通の取組～

実践を通して共有された課題

- 主体的・協働的な活動を重視すれば、必ず、深い理解がもたらされるとは限らない。
- 主体的・対話的な学びと深い学びの両立に試行錯誤する面が見られた
- 深い学びを見極める評価の取組が必要
- パフォーマンス課題の単元での位置付けの試行錯誤

研究の方向性

主体的・対話的な学びと深い学びを両立させるための共通した実践研究と評価の取組が必要

「本質的な問い」
「パフォーマンス評価」等
京都大学大学院西岡教授によるワークショップの実施

有識者を交えての
実践協議会と
研究協議会を開催

拠点校の実践例 1

学校の実態

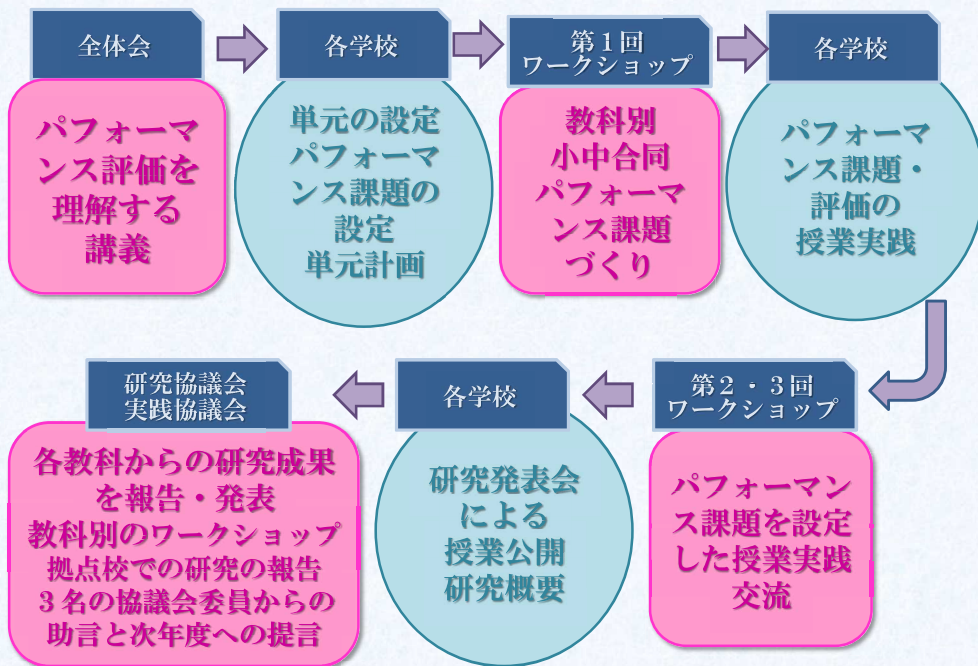
- 平成19年度、5校の中学校を統合して開校
京都市の中学校統合では最大の統合
- 課題のある家庭・地域を含む中、キャリア教育の視点で教育活動を展開
- 言語活動の充実、読解力の向上などに取り組み、学力向上に向け、授業改善に邁進

研究の概要

- ◆本質的な学びに導く「問い」の研究
 - ・「分野・大単元を通じた問い」「中単元を通じた問い」の設定
 - ・複数の問いを作成し、問いの検証を行い、授業実践を通して「問い」の質の向上
- ◆対話の可能性の研究
 - ・思考ツールを活用し、可視化・操作化を行い、見方・考え方を働かせ、理解を深める

■下京中学校

3 研究の実際 ワークショップを中心とした実践



拠点校の実践例 2

学校の実態

- 年々児童数が減少し、学年が単級 全181名
- 就学援助受給率が85%という厳しい生活実態を抱える家庭・地域
- 経験不足を起因とする想像力や語彙の乏しさ
- 心の安定を根幹とする学力向上と規範意識を重点課題として長年取り組み、変容が見られる

研究の概要

- ◆授業デザイン力の向上
 - ・主体的な学びを導き出すための授業導入の工夫、パフォーマンス課題の設定
 - ・1時間の学習や単元をプレ、メイン、ネクスト3つのステージに分けて構想
- ◆話す、聴く、話し合う活動の重視
 - ・自分の考えをもち、友達の考えと比べ問題を解決するための学習形態の工夫
 - ・授業後の「ふりかえりシート」を活用し、指導者の手ごたえと定着度の相関から分析

■向島藤の木小学校

○単元のねらい

角柱や円柱などの体積に関心をもって取り組み、求め方を考えたり、表現したりして課題を解決し、体積の求め方を理解できる。

○パフォーマンス課題

ケーキの体積を求めよう



○授業で工夫したこと

先生からの挑戦状シリーズ

○このシリーズは、これまでの学習で学んだことをすべて生かした課題が出てくることを、年間通して定着させた

ケーキ模型を全グループに提示

グループでの話し合い活動をメイン



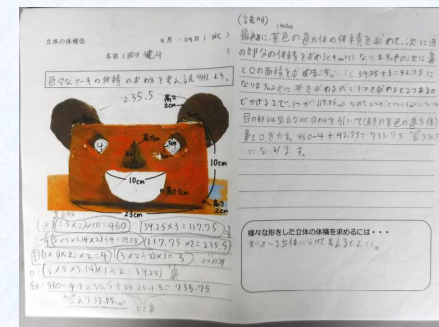
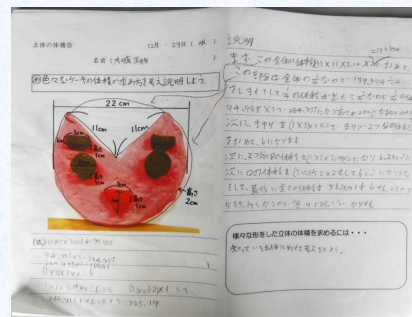
向島藤の木小学校

○成果

- ・既習の学習を活用すれば解ける自信につながった。
- ・模型により、求める部分が明確でわかりやすかった
- ・グループ学習により、補い合いながら学習する姿

○課題

- ・45分の学習時間の中で、指導しきる
- ・自力解決の必要性と集団解決の中身の設定



向島藤の木小学校

4 成果と課題 成果

実践するなかで児童生徒の姿が見えた

教職員の授業改善, 工夫した授業

主体的・対話的な学びにつながる具体的な指導方法を考察・実践

これまでただ漠然と教科書の内容を教えていた

教職員の取組への意欲の向上

- ・思考ツールや知識構成型ジグソー法の意義が理解できた
- ・創意工夫の意識が高まる

児童・生徒の変容

- ・必死に自分の考えを伝える姿
- ・他者へ伝える苦手意識の克服
- ・友達の説明から理解が深まる
- ・授業中の集中

好循環

好循環

パフォーマンス評価を取り入れて

4 成果と課題 課題と今後の方向性

パフォーマンス評価

- ・「本質的な問い」が「単元を貫く問い」であることの理解が不十分
- ・単元の流れのどこに位置付けるべきかの試行錯誤
- ・ルーブリック作成の難しさ
- ・児童生徒が自ら課題を設定できるような深い学びのイメージ

児童と教職員

- ・学力低位層に対する基礎的・基本的な内容の習得と活用・探究の両立
- ・思考手順の固定化や授業準備の煩雑化

実践研究の全市への展開

- ・研究内容を知ること、成果と課題の共有に留まる

パフォーマンス評価の取組を通して、深い学びを実現
「問い」の質を高める 単元の構想を重視する
教科等の見方・考え方を働かす

5 今後の研究実践の展開

ワーク
ショップの
充実

研究拠点校を増やし、多くの教員が継続的に参加できる仕組みの構築

新拠点校
5校

先行実施校
ベース校に

京都市独自
実践校

カリキュラ
ム・マネジ
メント研修

カリキュラム・マネジメント研究とタイアップし、全市でカリキュラム・マネジメント研修を実施

授業改革
リーフレット

「主体的・対話的で深い学び」を実現するためのリーフレットを全市教職員に配布

ポートフォリ
オ評価

「学びの深まり」を実感するために、ポートフォリオ評価を実施し、3学期制の形成的評価につなげる

平成32年度に向けて作成する「京都市教育課程指導計画（新京都市スタンダード）」改訂につなげる



アクティブ・ラーニング&カリキュラム・マネジメントサミット2018

文部科学省 研究指定

教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善に関する実践研究
(平成28・29年度)



京都市 の取組

京都市教育委員会

